

ノルウェーの母子保健 ノルウェー 2017/9/17～9/23

看護コース 3年 角野香織、西原菜帆
母性看護学教室 春名めぐみ先生

渡航先での活動内容

University College of Southeast NorwayのElisabeth先生にご紹介いただき、2か所の病院の見学と助産師のインタビュー、2か所のコミュニティーセンターの助産師と1人の保健師にインタビューをしました。

ノルウェーの助産師・保健師の業務内容や、ノルウェーをはじめとした北欧の社会福祉、虐待やDVのスクリーニングのためにコミュニティーセンターの助産師がどのような工夫を行っているのかなどを学びました。
そこから日本と比較し、少子化対策についても考えました。

目的を達成できたか

目標は「社会福祉が充実している北欧の母子保健を学ぶことで、日本の少子化対策に生かす」でした。日本社会では、仕事と子育ての両立を困難に感じている人が多いと思いますが、ノルウェーでインタビューすると必ず、「産休を1年間とることができるから両立は難しい」という返事が返ってきました。また、勤務時間もフレキシブルで非常に短いのが印象的でした。このように、ノルウェーの働き方が子育ての両立の参考になるのではないかと考えられたので、目的は達成できたと思います。しかし、ノルウェーでも養育費は高額で、子どもは2人までしかいない人が多いようで、合計特殊出生率が1.7ととても高いわけではありません。働き方を変えてもまだまだ課題はあると感じました。

グローバルな視点とは何か

日本の母子保健事情について何度か質問される機会がありました。それぞれが自身の国のことをしっかり理解したうえで、海外の方と話すことで互いの長所や短所を明確にして高めあっていくことがグローバルな視点なのではないかと感じました。

将来の進路決定へどう影響したか

病院とコミュニティーセンターの助産師さんにお話を聞くことで、雰囲気はかなり異なると感じました。コミュニティーセンターの助産師のほうが、妊婦さんのことをしっかり把握していて、勤務もすごく楽しいとおっしゃっていて、妊婦さんと長期間顔を合わせて信頼関係を築いていく助産師の役割に魅力を感じ、また、地域に密着した仕事をしたいと思いました。

目的以外に学んだ点、反省点

コミュニティーセンターの助産師とお話した際、こちらの英語力が乏しい中、私のペースに合わせて話してくださり、わかるまで聞こうとしてくださいました。英語の練習不足は反省点ですが、そのような姿勢は、普段の妊婦さんなどとのコミュニケーションにも非常に役立っているのではないかと感じました。そこで、私も、相手のペースに合わせて、相手がこの人になら話そうと思ってもらえるような聞き方、話し方をしたいと考えました。

後輩へのアドバイス

日本のことを理解して、それを海外と比べるのが大切だと感じました。また、訪問先にアポをとるのは大変だと思いますが、自分の興味や目的を明確にして交渉するなり相談するなりすることが大切だと感じました。
ヨーロッパとはいえ英語圏でないところへ行く不安はありましたが、あえて英語圏でない所に行くとあちらもゆっくり話してくれるのでコミュニケーションがとりやすいです。

研修支援制度に望むこと

とても有意義な研修となり、協力してくださった先生方には本当に感謝しております。補助金も、今回は航空券とホテルの半額で25万円の目安を大きく上回っていて申し訳ありません。
一つ挙げるなら、活動期間が少し短いかもしれません。予算の制限や、アポ先の都合上空白の一日ができてしまってそれ以降の予定を入れられなくなるなど様々な都合があると思うので、実費でもよければ延長できるなど融通が利くとさらに得られるものが増えるのではないかと思います。



Elisabeth先生



保健師のBerit先生と助産師のKristin先生



健診を行うコミュニティセンター



フィヨルド
(フェリーが日常的に使われていました)